

第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会（第5回） 議事要旨

日 時：令和2年2月27日（水）午後5時30分～7時30分

場 所：多摩市役所 401 会議室

出席者：

笹井 宏益委員（委員長）
梅澤 佳子委員（副委員長）
野口 享子委員
五十嵐 亮委員
小林 攻洋委員
松本 俊雄委員
木村 治生委員
岡村 志穂委員
喜多 尚美委員

欠席者：

青木 ひとみ委員
小泉 雅子委員

傍聴者：なし

<会議次第>

1. 開会
2. 議事要旨確認
3. 報告
 - (1) 「生涯学習」に関するアンケートの世代別結果について
4. 議事
 - (1) 第4次多摩市生涯学習推進計画の骨子案について
5. その他
6. 閉会

<配布資料>

【事前配布】

- ・資料1 第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会（第4回）議事要旨（案）
- ・資料2 「生涯学習」に関するアンケートの世代別結果について
- ・資料2 「生涯学習」に関するアンケートの世代別結果について（補足）
- ・資料3 第4次多摩市生涯学習推進計画【骨子案】
- ・参考資料 第3次多摩市生涯学習推進計画
- ・参考資料 第五次多摩市総合計画第3期基本計画

【机上配布】

- ・資料1 第4次多摩市生涯学習推進計画策定委員会（第4回）議事要旨（案）（公開用）

1. 開会

(委員長よりあいさつ)

2. 議事要旨確認

【委員長】

議事要旨の確認をお願いします。事前に事務局より案の状態で配布していると思いますが、もし修正がございましたら、お申し付けください。

(意見なし)

【委員長】

それでは、この内容で公開させていただきます。

3. 報告

(1) 「生涯学習」に関するアンケートの世代別結果について

【事務局】

資料2と資料2補足をご覧ください。前回の策定委員会でもご説明させていただきましたが、アンケートの世代別結果について、社会調査等をご専門とされている木村委員に、ご説明いただく機会を設けさせていただければとお願いしまして、木村委員に補足資料を作成いただいています。木村委員、世代別結果の内容と併せて、ご説明をよろしく申し上げます。

【委員】

(資料2及び資料2補足について説明)

【委員長】

とても見やすく分かりやすい資料、ありがとうございました。皆様のほうから、もう少し詳しく聞きたいなど、何かご質問等がありますか。

【副委員長】

生涯学習に関わっている方は、今の段階では趣味とか教養を深めるところに関心を広げている方が多いとあらためて感じました。地域活動への参加の意向は「分からない」ということですが、皆さん、何が地域活動なのかという活動に対するイメージができない状況にあるように思います。昔でしたら、いろいろな形の組織の中で継承されてきているわけですが、多摩ニュータウンの場合はつくられたまちなので、世代交代していく中でコミュニティの活動、ボランティアやNPOの活動に対するイメージがなかなか難しいのではないかとあらためて感じています。逆に言うと、皆さん、そこを課題だと認識しているので、そこを生涯学習の施策の中でつなげていくかがとても重要ではないかと思いました。

【委員】

とてもよく分かるところがあって、関戸とか一ノ宮などの在来の所は祭りをを行います。祭りは生涯学習ではないかもしれないけれども、そこで世代がつながるのです。多分、ニュータウンの中は祭りもな

いし、もともとの風土もない所で、生涯学習をどう作り上げるかは大きな課題だと思います。祭りなどをいろいろやっていますが、お母さんと一緒に何かをやっているとすると、その子どもと一緒に飲みに行ったりというつながりが、地域の中でできています。

【副委員長】

その意味では、私も昔ながらのまちで育ってきたので、コミュニティセンターで子どもみこしをつくって、子どもたちに担いでもらおうと思うのですが、「コミュニティセンターのみこし」という形だけなのです。「おみこしとは何か」という、文化の部分が抜けてしまっているのも、誰もその価値を見いだせていなく、親御さんにも子どもたちにもその部分がうまく伝わっていないことに、ある意味びっくりしたというか、コミュニティセンターのお祭りなどに関わりながら感じることもあります。

【委員】

日頃あまり考えていないという、これは若い人たちの実感かもしれないです。むしろ、仕事のことや、同僚とか昔の仲間との付き合いが優先されています。

【委員】

特に若年層はそうではないかと思います。今の祭りの話もそうですが、昔は生活の中にビルトインされていた活動の中で、自然に交流があったわけですが、今はニーズや行う方法も違う中で、個として立っているものをいかにつなげていくかを考えなければいけないという状況にあるということです。だから難しい、現代的な課題だと、データを見ていてとても感じます。

【委員長】

多摩市でもそういう傾向があるという、論拠を示していただいたと思います。他にいかがでしょうか。

【委員】

若い世代は、仕事や家庭が忙しくてできないということが多いのですが、前の資料の問8では、仕事が忙しくてできない方が50歳代までです。今度、問12の「今はできていない理由は何か」については、逆に50歳までは時間がないとなっていて、60歳以降の方はきっかけがないとお答えになっています。この30歳、40歳の方が60歳になって時間ができたときに、では、きっかけがなくてできないのかということになるのかなと思ったので、逆に30歳、40歳から、時間がなくても月に1回とか何か少しでもきっかけを早い段階でつくる必要があるのかなと思います。60歳の方が若い方と交流して、30歳、40歳の方が60歳になったときの姿を見習う形で、若いうちからの交流が必要だなと実感しました。

【委員長】

地域団体では、PTAに入りたくないとかで、熊本では裁判になったりしていますし、町内会の加入率が下がっていて、東京では半分いればいいという話になっています。それは、地域ごとの課題というよりは全国的に共通した都市型社会で見られる状況なのです。だから、何か共通の原因があって、それはむしろ、世代と世代との関係づくりの問題だと思っています。だから、その辺まで少し掘り下げて、どういう対応が可能なのかを考えていかないといけないと思います。

【委員】

難しいですね。この間も道普請の話をしました。昔はみんな一緒に出てきてやらないといけなかった時代でした。今は、行けないからお金を出しますとなって、それがだんだん、まちづくりは行政がやるという、要するに委託する時代になってしまいました。それと、今はスーパーで何でも買うことができ、商店街がなくなりつつあり、商店街のおじさんと顔を合わせる機会が全くない状況です。それを戻せと言っても仕方がないのですが、そこをどう解決するかです。だから、お年寄りが集まる居場所を、どこかにたくさんつくることしかないのかなと思ったりします。

【委員長】

アンケート調査結果の分析に関して、他にご質問、ご感想などはよろしいですか。木村委員、すてきな分析、どうもありがとうございました。

4. 議事

(1) 第4次多摩市生涯学習推進計画の骨子案について

【委員長】

続いて(1)第4次多摩市生涯学習推進計画の骨子案について、ご説明をお願いします。

【事務局】

(資料3について説明)

【委員長】

ありがとうございました。説明していただいて、簡潔で良かったのですが、一番骨格というか、本質的な部分です。あらためて、今ご説明があったところまで議論したいと思います。目次は、あとで整合性を合わせようと思います。まず1ページ目、「第1章 策定にあたって」の「第1節 現代社会における生涯学習の意義」に一般論的なことを書いており、それを、計画を作ったり生涯学習を振興したりする政策に結びつけるということです。本来、生涯学習は自由なものですが、地域のガバナンスや地域づくりに貢献するような部分もあるので、行政や我々市民としても頑張ってやりましょうという意味で位置づけをしたものです。ここについて、ご質問、ご意見があればいただければと思います。原案の原案は私が書いて、事務局が少し書き足したと思いますけれども、どうぞご遠慮なく言っていただければと思います。

【委員】

すごく丁寧に書かれていて、「なるほど」と腑に落ちました。

【委員】

このページ(1ページ)は平易な文章で、分かりやすくいいです。

【委員】

前回、カルチャーセンターとの違いは何だという議論がありましたが、これを見ると、そういうことなのだと分かる気がします。

【副委員長】

市民の皆さんと、「あ、そういうことね」と上から順序立てて読んでいって、後半の部分で、「行政によるサポート」とはどういうものか、最終的には「地域コミュニティの方向性」、そして、前回、小林委員からお話があった「社会性と公共性を帯びた市民の多様な学習活動に対してサポートすることが生涯学習の意義である」の部分が一番下にあり、それがぴりっと効いています。

【委員長】

とりあえず、ここはこのままにさせていただきます。続いて、2ページの「第2節 計画の位置づけ」、3ページの「第3節 計画の期間」について、ご質問、ご意見はございますか。

【副委員長】

細かいことです。あとで直していただけるのかもしれないのですが、ですます調、である調、体言止めが入っていて、全体に文体が整っていません。具体的に申し上げますと、「第2節 計画の位置づけ」の黒ポチの3つ目のところは、その上も「応援するものです」となっているので、「定める計画である」のほうがいいと思います。その辺、細かいところは、あとでもう一度確認していただきたいと思います。

【委員】

下に図がありますが、文章のどこに該当するのですか。多分、黒ポチの2つ目が「生涯学習推進のイメージ図」の説明になっていて、黒ポチの3つ目が、3ページの上の図の説明だろうというのは何となく分かりますが、例えば、「図に示しますように」みたいなものを入れていただくといいのではないかと思います。図と対応させて説明しないと、図の意味があまりないのかなと思いました。

【委員長】

図の場所は、このままでもいいということですか。

【委員】

どこの説明なのかが分かればいいです。例えば、よくあるパターンは、「図1-1」のように、図に番号を書くと、「図1-1で示すように」となります。

【委員長】

それは、そうさせていただければと思います。番号などを入れると対応できると思います。

【委員】

感心したのは、「第2節 計画の位置づけ」の2番目の黒ポチの「『学習のプロセス』を応援するもの」という表現が非常にいいと思います。行政が上から言っているのではなくて、住民同士が学習するプロセスのほうがもっと大事だということで、そこは大事にしていきたいと思っています。

【委員長】

それは、プロセスそのものを具体的に図化しているものなので、そういう意味では分かりやすいと思います。

【委員】

それに関して、事前に配布いただいた資料では、この図には「プロセス支援について」という題目があったので、黒ポチの2と『学習のプロセス』を応援するものです」が結びついたのですが、本日お配りいただいた資料を見たら、「生涯学習推進のイメージ」となっており、もっと広いイメージになってしまったのかな、もしかするとつながりがなくなってしまったのかなと感じました。

【委員長】

図としては、生涯学習の全体のイメージを示しているものなのです。だから、文章のほうにもう少し詳しい説明を入れましょう。「生涯学習というのはプロセスで、そのプロセスを充実していくことが地域づくりにつながります」ということを入れると対応すると思いますが、それでいいですか。

【委員】

先ほどの事務局からの説明では、具体的な施策が決まってきた段階で、ここに具体的な施策がひもづくようにするということでしたが。

【事務局】

そうですね。ここだけでは、生涯学習推進施策全体という中ではイメージが難しいかもしれないので、例えばストーリー仕立てにするなど、イメージできるような図にしていきたいと思っています。だから、プロセス支援だけでなく、生涯学習推進全体のイメージを示していきたいと思っています。

【副委員長】

「生涯学習推進のイメージ図」ですが、「行政によるプロセス支援」は太い枠に入っていてよろしいと思いますが、「地域コミュニティの形成につながる」が波打っているところが気になります。この波打っているというのが何をイメージしているのでしょうか。いろいろな方が見たときにどういったイメージを持つかということですが、私は不安定なイメージを持ってしまったのです。

【委員】

下の「情報収集」「社会参加」は、こういうプロセスという意味ではないですよ。

【事務局】

市民の方々の社会参加のプロセスが、「情報収集」「社会参加」「他者と接する」というプロセスがあって、その障壁を行政が支援することで、障壁を取り除いていくようなイメージをここでは表現しようとしています。

【委員】

私がプロセスと言ったのは、行政が結論を出すのではなく、住民同士が話し合うプロセスに対して行政が支援をしていくという情景をイメージしたのです。

【委員長】

この辺は、「他者と接する」というところでの場づくりだと思います。

【委員】

この図のように変化をしていくということでもなさそうな気がするのです。

【委員長】

これは一番丁寧に書いたもので、この途中から活動を始める人もいるでしょうし、社会参加で終わってしまう人もいます。でも、それぞれにサポートしていくという意味だと思います。場づくりとか、機会づくりみたいな、具体的な施策をここに書いていくと、よりイメージがはっきりします。

【委員】

何となく分かりました。段階的に行くというよりは、それぞれが大事という意味でいいのですか。

【委員長】

そうです。この矢印は、個人の活動が地域に広がるというイメージで作ったのだらうと思います。だから、もっと立体的な図を描ければいいと思います。

【委員】

図の真ん中の「社会を運営する機能（ガバナンス機能）としても力を発揮」というのが、意味を捉えにくいかもしれません。この活動をすることが、社会をきちんと安定して運営する機能になりうるということを意図して書いていると思いますが、意味が取りにくい気がします。

【委員長】

一般論としては1ページ目で少し触れてはいるのですが、改めて文章で説明を入れますか。

【委員】

下の図面で、「他者と接する」と「他者と関わり合う」がありますが、それほど違わないのではないかなと思います。この2つは、「他者との関わりを大切にする」という、一言で済むのではないかと思います。

【委員長】

おっしゃる通りですが、「関わり合う」という中で、例えばリタイアした世代が朝9時頃、公民館やセンターなどでみんな新聞を読んでいる、何も話をしていないわけではないのです。でもそれは、社会に対して自分の窓を開けるみたいなことでとても大事だと思ったので、「接する」だけで一段階止めているのです。

【委員】

接することから関わり合いに進展するということは分かるのですが、この図はコミュニティセンターの骨子と似ています。コミュニティセンターではいろいろな情報収集ができるし、ここで行事があれば社会参加などができる。来れば、そこで他者との接しがあって関わりを持てる。そこで仲間ができますから、仲間同士でやろうよということが生まれるという図です。ですから、「他者と接する」と「他者と関わり合う」は、一緒でいいと思うのです。

【委員長】

生涯学習や社会教育の観点から言うと、関わり合うことが学び合いだと。仲間同士で共同実践することも学び合いという意味で、「学び合い」ということを別の言葉でいうと「関わり合い」みたいなところもあるので、それは入れたいと思いますが、「接する」も含まれるのではないかというご指摘を、他

の皆さんはどうお考えですか。

【委員】

私は、「他者と関わり合う」は、いきなりは少し重たい感じがします。「接する」というか「他者を知る」ではないですが、フランクなほうがイメージは付きやすいと思います。「関わる」は面倒くさそうで、できれば関わりたくないというスタンスです。

【委員】

朝、散歩して「おはよう」と言うのは、「接する」ですか。

【委員長】

あいさつは「接する」です。でも、あいさつは大事です。

【委員】

「社会参加」がよく分かりません。「社会参加」は、もっと濃密ではないですか。

【委員】

右の3つ（「他者と接する」「他者との関わり合う」「仲間同士で活動」）が、「社会参加」だと思いました。

【委員】

「社会参加」というのは、青少年育成協議会や交通安全協会、防犯協会連合会など、お時間があつたら関わりを持って社会貢献してみませんかというお誘いはしています。だから、この「社会参加」というのはいいのではないですか。人間として当たり前のことです。

【委員】

何が社会参加かイメージが湧かないのです。自治会で呼び掛けて、防災訓練をやるときに参加するのは、社会参加ですか。

【委員】

それもそうですね。

【委員長】

社会参加が苦手とか、なかなか行こうとしない人は、子育て中のお母さんも含めて、いろいろな世代で増えているわけです。そういう人たちを少しプッシュしてあげて、ある種の行動を起こすことを何と云うかです。

【委員】

社会参加は、結構意味が広いです。存在している時点で社会に参加しているので、多摩市のことなので、地域社会とか、少し何かくくりを決めてもいいのではないかと思います。

【委員】

定義づけになるとなかなか難しいです。ただ参加するだけというのと、参加した結果、もっと濃密な人間関係ができてくるのとあります。

【副委員長】

社会参加から社会参画へということでしょうか。

【委員】

誰かと知り合って、では一緒に何かやろうかという人もいるので、そのあたりの段階が難しいです。

【事務局】

イメージ図としては、もう少し具体例を出す形で見せていければ、分かりやすくなるかもしれません。

【委員長】

複線型とか立体型の図にしたほうがいいのかもかもしれません。

【委員】

そういう色分けなどの工夫をしないと分からない図です。

【事務局】

分かりました。ありがとうございます。

【委員長】

委員のご意見も踏まえて、概念と言葉の表現を整理して、それも書き直して、次回ご提示したいと思います。

【副委員長】

イラストなどを入れてはどうですか。

【委員】

私も気軽なイラストがあるといいと思います。

【事務局】

イラスト的なものも含めて、分かりやすく親しみがある形にしたいと思います。現在のイメージ図に、イラストや具体例を交えて、もう少し分かりやすく具体的なイメージにしていければと思います。伝えたいイメージのエッセンスとしては、生涯学習活動があって、この計画がプロセス支援をするもので、コミュニティの形成につながるというものです。

【委員長】

もしも何かありましたら、お願いします。

(意見なし)

【委員長】

では、コンセプトそのものをご理解いただいたということで、表現の仕方をもう少し工夫してみたいと思います。もしお気付きの点がありましたら、また戻っても構いませんので、ご指摘いただきたいと思います。他の計画との関連や計画の期間は、3ページの「関連計画との位置づけ」の表のように、もう決まっている話です。ちなみに、地域福祉計画は何年計画ですか。

【事務局】

今、地域福祉計画の改定中で、当初は5年計画の予定が6年になり、3年で見直しをしていく形になりました。

【委員長】

生涯学習推進計画は長期計画なので、長期的な予測を踏まえて、長期的な方向性のもとで、多摩というまちをつくっていきましょうという方向性です。だから、短期計画や中期計画は、ある程度きっちりとしていて、変わったらすぐその計画を変えます。これは、もっと鷹揚な計画なので10年で、大きな方向としてこういけばいいなということを書いています。

それでは、次の4ページの「第4節 計画の骨格」は何度かご議論いただいて、基本的にはご了解いただいていると思いますが、これでいいですか。これも何かお気付きの点があれば、後でフィードバックして出させていただきたいと思います。

5～8ページの第2章「生涯学習をめぐる現状と課題」では、第1節が「近年の社会状況と多摩市の状況」、そのうちの1番目が「グローバル化の進行」ということで、非常に大きな流れ、指摘、認識を示したもので、こういう流れの中にありますということです。2番目は「人口減少社会の到来と少子化・高齢化の進行」、3番目は「若者世代・子育て世代の動向」、4番目は「地域コミュニティの助け合い・支え合いと地域課題」、5番目は「安心・安全の状況」、6番目は「共生と持続可能間まちづくりの状況」、7番目は「生涯学習を通じた豊かな地域社会づくりと新たな地域文化の創出」という節立てとなっています。とても大きな流れと、“多摩市では”ということが多摩市に着目して説明を加えています。もっとこういう点が重要ではないかとか、ここはあまり強調しなくてもいいのではないかというご指摘がありましたら、ぜひ出してください。いかがでしょうか。

【委員】

質問ですが、「(4) 地域コミュニティの助け合い・支え合いと地域課題」の「多摩市では～」の中の、「(仮称) 地域委員会構想」というのは、あるのですか。

【委員長】

3番目の黒ポチに、「(仮称) 地域委員会構想」検討等をふまえとありますが、お願いします。

【事務局】

第5次多摩市総合計画第3期基本計画の101ページ目の施策C1-2「市民主体による地域づくりの推進」の「(2) 地域自治を推進するためのしくみづくり」の中の、① 地域懇談会の開催である地域委員会の設置というところで、「(仮称) 地域委員会」を、エリアごとに検証しながら順次設置していきます」という取り組みについて記載しており、地域委員会構想とはこの地域委員会というものです。

【事務局】

補足させていただきます。これは、既に第3次の生涯学習推進計画の中でも挙げられておりまして、33ページの【目指す方向 3】に「人や団体が相互に関わりあいながら、協力して地域づくりを進めるまち」という方向性で、「(仮称) 地域委員会の創設」ということで挙げている取り組みではありますが、

創設には至っていない状況です。ただ、継続的に議論はされてきて、自治推進委員会でも、課題として議論してきて、昨年の暮れくらいに、7期目の自治推進委員会の中で、このことについて検討を進めようとしているところです。

【委員】

実際、難しいです。市町村合併したときに、元の市町村の機能を残すためにこういう委員会をつくってやっていたところがあるけれども、財源も含めてくれればいいですね。

【事務局】

これからどういう仕組みにしていくかということは、これから検討していく段階で、特に多摩市の場合は、この上の2番目の黒ポチのところで、社会福祉協議会がコミュニティ単位で、既に、松本委員や小林委員がやっていらっしゃる地域福祉推進委員会というものがございますので、それとどういう違いがあるのかとかそういったところも含めて、今、検討に入ったところでございます。

【委員】

地域福祉推進委員会は、予算がかかるのです。ただ、地域のまちづくりのハブにはなると思います。それと委員会では、違うだろうと思います。

【委員長】

これは、今、検討中ということですか。

【事務局】

これから検討を始めていくということです。

【副委員長】

前回、ここは現状と課題に留めようということで話し合いをしていたと思うのです。ところが、ここに取り組みが入ってしまっているところが若干いろいろ目に付くところです。市としては、どんどん広報したいという思いがあるので、書き込みたいという気持ちは分かるのですが、そこをぐっと抑えていただいて、その意味では5ページの一番下ですが、「要介護認定率が26市で最も低い」と。これは事実ですし、いいと思うのですが、「282か所で健康づくりや体操を行っている」というのは、ここまで書く必要があるのかなと。気持ちは分かるけれども、ここは現状と課題をすっきりと。後ろ向きのネガティブなことばかり出したくないというのではないのですが、思いが入ってしまっているのを検討していただきたい。「地域に元気な高齢者が多いことを示す」など、かなり具体的に書かれている部分と、そうでない部分があるという感じがします。

【委員】

私も同じことは感じました。同時に、結構難しいと感じたのは、その状況（現状）をどう捉えるかという解釈があって、その解釈に基づいて方向性を示すという流れになっていくと思うのです。前回もそういうお話をこの委員会の中でもしてきて、すごく整理はされてきたとは感じています。ただ、状況と課題をどのように記述するかは、結構難しいと感じました。状況で書かれている、「グローバル化が進行しています」「少子高齢化が進行しています」という、一つ一つは事実でその通りですが、それが生

涯学習とどう結びつくのかということが、後ろの第5節に課題として書かれているのです。この課題も、実は課題と方向性が混ざっていて、課題があり、こういう方向にしていますみたいなことも書かれていて、課題のまとめだけにはなっていません。言葉も全て、「何とかの充実」という方向性なのです。「学習メニューが不足しています」だと課題ですが、「学習メニューの充実が必要です」と書かれているので、これはどちらかという、課題と方向性がまとめて書かれているものです。元に戻ると、この第1節に書かれている現状が現状だけだと、これが生涯学習とどう結びつくのかということがなかなかイメージしづらい部分があるので、ここに課題を持ってきたほうが分かりやすいのかと思いました。例えば、(1)「グローバル化の進行」で、「外国人籍の人材が大量に流入してきて拡大します」というのは事実ですけど、「だから外国語を勉強しなければ」みたいに、生涯学習と結びつけて考える人もいるかもしれないけれども、これだけでは結構難しいかもしれないと思いました。

【委員長】

ありがとうございます。その通りだと思いますが、1つの現状から複数の課題が出てくることがあるわけで、だからこうしようというものが複数出てくることはあるのです。だから、難しいのです、地球温暖化は進んでいます。では、「ごみはきちんと少なくして分別しましょう」とか、「リサイクルをもっとやりましょう」という方向性も出てくる。これは、その取り組み自体が環境学習みたいなところがあるので、生涯学習の取り組みだと思います。「地球温暖化が進むことによって、雨がたくさん降って土砂崩れが」というのは防災の話になったりもするわけです。1つの社会的な動きとか、自然現象の進行から幾つか出てきたときに、この中でどう書いていくかという問題もあると思います。確かに、今は方向性と現状の指摘が少しくロスオーバーしすぎていると思いますが、ある程度は、その現象が持つ意味をきちんと読み解く、示唆することを少し書いておかなければいけないというのは、おっしゃる通りだと思います。しかし、方向性まで書くと、複数の方向性に結びつくということもあるわけです。

【委員】

おっしゃる通りです。ですので、多分第1節は、事実に寄せていこうという話を前回もしたので、きっとそのほうがいいのかと思いつつ、こうなると読み解きが結構難しいと改めて感じる部分が一つあったということです。多分、生涯学習に関心を持っていない人がこれを読んだら、「それで？」という感じになるのではないかと思います。第2章の構成みたいなことで、まずは現状を捉えますと。それから、アンケート結果で多摩市の状況をきちんと押さえますと。その上で、最後の第5節で課題をきちんと抽出し、そこから方向性を出しますという、全体の流れを示すロードマップみたいなものが初めにあるといいかもしれないです。

【委員長】

構成の流れについての解説ですね。分かりました。では、「(1) グローバル化の進行」のところ、3番目の「グローバル化の進行により、人やモノの移動がさらに活発になるとともに、地域や国家の諸活動が相互依存的になっている」というところに、コロナウイルスのことを書こうかなと思ったけれども、そういうのを書くのもつらいなと思ったのです。ある程度、示唆するような意味みたいなものを書ければと思います。他にいかがでしょうか。

【副委員長】

6 ページの (3) 「若者世代・子育て世代の動向」の一番下の5つ目の黒ポチですが、「女性の就労意欲の高まり等を背景に、子育て環境の充実を求める人が多くなっている」とあります。子育ての環境の充実を求める人が多くなっているということは分かるのですが、女性の就労意欲ということだけではなく、家族のあり方、ライフスタイルの変化など、他にも要因があると思います。よく「女性の社会進出があるから子育てが」と言われてしまうのが、女性としてはいつも感じる部分があります。

【委員】

核家族化になったり、子育てで孤立して育てるとか、産後のケアみたいなものが必要だということは、社会進出とは関係なくありますね。

【副委員長】

「家族全体で、共働きをしていく中で、子育て環境の充実を求める人が多くなっている」という書き方をしてほしいと思います。

【委員】

これだけではないですからね。

【委員長】

なるほど。他の方はどうですか。

【委員】

いろいろな意味で取られますね。シングルマザーなのかもしれないし、「共稼ぎ」という表現でもいいですね。

【副委員長】

私も古い人間なので、社会進出することが悪いことをしているように感じながら生きてきたというのが、自分の中に残っているのかもしれないですし、ある世代の人間だけかもしれないですが、女性が社会に出て行くということが高まったので、子育て環境の充実を求める人が多くなってきているというように思ってしまうのです。

【委員】

だから、昨日の朝日新聞にも産後ケアのシステムを充実しなければいけないとか、私が講座でやったのですが、出産時から毎日メールを送りながら寄り添うみたいなことを、30自治体くらいがやっていたので、子育ての難しさは就労だけではないのです。どうですか。

【委員】

確かに思いました。あまり気にしていなかったのですが、10年間の計画としたときには古いかなと。確かに、多様な生き方のほうが理由なのかもしれないと思います。

【委員長】

おっしゃる通りです。8 ページの (7) の一番初めのポチで、「個人が自由な生き方を模索する社会

になりつつある」というのを私の原案で入れたのですが、仕事か育児かの二択ではなくて、子育ても含めて自分のキャリアを自由に選択することが受容されるようになってきたと思います。だからこそ、「子育て環境の充実」なのかなと思ったのです。「就労意欲」と書いたのは、シングルマザーの子どもの貧困のことが頭にあったのです。委員から「子育て環境をもっと充実させなきゃ駄目なのよ」とおっしゃっており、そういった意見は、他の多摩市民からもよく聞くのです。だから、エビデンスというデータではないのだけれど、多分そういう声があるのだろうと思ったのです。

【副委員長】

後ろの文章は何もないと思うのですが、この前の文章が少し小さい。委員長は、ママが1人で仕事をしながら子育てをすることの困難を踏まえて「就労意欲」と書かれたと思うのですが、世代が代わると違う読み方をするのです。

【委員長】

分かります。だから、8ページのほうとも併せて、書き方を工夫してみたいと思います。

【副委員長】

その意味では、委員長が、8ページのところの「自由な生き方を模索する」ということをお話してくださって、そういうことなのだと思ったのですが、「自由な生き方」がいいのか、「多様な生き方」がいいのか、「多様な人生設計」がいいのかなといろいろ思っていたのです。委員長はいかがですか。「自由な生き方」とは、もっと自由なという意味ですか。

【委員長】

いえ、自由な当事者性で、自分として自由に。多様であれば第三者性。第三者が見たときには、それは多様だということです。でも、これは計画だから「多様な」という表現のほうがいいのかもかもしれません。

【副委員長】

言葉は、そこに意味があって表現されていらっしゃると思うので、こういうところで深いお話ができると、変えるか変えないかではなくて、いろいろ勉強になります。

【委員】

確かに、先ほどのこの子育ての関連だと、孤独の保育、1人でやってしまうというところも入れておくべきなのかもしれないと思いました。今までは、自分の親と一緒に住んでいたことによって一緒に育てていたから負担が少なかったけれど、今は1分の1でやっていく。だから、ストレスがたまって鬱になるという話は聞きます。

【委員長】

そういうケースは多いです。その緊張関係が極限までいくと、虐待になってしまうわけです。

【委員】

よく分かります。そういう意味だと、現状というところに入ると言えば入るのかなと思います。

【事務局】

近いものとして、この「(4) 地域コミュニティの助け合い・支え合いと地域課題」のところの黒ポチ4つ目に、「子育て、介護、障害などをきっかけに孤立するなど」という形で、課題は挙げています。

【委員】

だから、「就労意欲の高まりや核家族の進展により」というふうに書くと、少し意味が違いますね。

【委員長】

分かりました。具体的な意見は、また検討させていただいて、また次回お示しさせていただきます。他にいかがでしょうか。

【副委員長】

「(4) 地域コミュニティの助け合い・支え合いと地域課題」のみタイトルに「課題」と入っています。これは、第2章が「生涯学習をめぐる現状と課題」なので、「課題」というフレーズがあったほうがいいのですか。

【委員長】

他の皆さんはどうですか。そういう助け合いや支え合いがなくなっていることが、地域の大きな問題になっているという趣旨ですか。これは、支え合いが希薄になっているとか、希薄化とかですね。

【副委員長】

第2章全体は「現状と課題」ですが、下が全部「状況」とか「動向」になっているので、少し気になりました。

【委員長】

その表現を少し変えさせていただければと思います。ありがとうございます。他、いかがでしょうか。

【副委員長】

肯定的なことと本当に課題だなということがそれぞれ出ているので、できれば、課題と肯定的なことというものをセットにして書いたほうが読みやすいと思いました。具体的には、6ページの「(4) 地域コミュニティの助け合い・支え合いと地域課題」のところですが、上から2つ目の黒ポチは「深刻化が見込まれる」で、下は「期待できる」という肯定的なことで、次が少し否定的で、次がまた肯定的というところなので、この2つを一緒にして前にもってきてしまうとか、少し細かいことなのですが、そのほうが読んでいて、頭の中での切り替えがうまくいくと思います。

【委員長】

では、肯定的な事柄を前にもっていくのはどうですか。

【副委員長】

どちらがいいかは、特に私は考えていなかったのですが、読んでいて、問題と期待できることとかいい言葉を合わせて書くというのはどうでしょうか。

【委員長】

セットで書くということですか。

【副委員長】

問題と期待できることのセットのほうが、読みやすいと思います。

【委員長】

課題性を徹底したほうが、その反動で政策というのは作りやすいのですが、計画というのは未来志向だから、あまり課題ばかり暗いことを書くと、「未来は暗いのか」みたいな部分もあるので、セットで書ければ一番いいなと思いますので、セットで書くように努力をしてみます。

【委員】

一緒にしてしまうと、矛盾してしまうと思います。

【副委員長】

少し並び替えをしたほうが、読みやすいかなと思いました。

【委員長】

分かりました。他にお気付きの点でも何でも構いません。いかがでしょうか。

【委員】

8ページの下の枠の所の※ですが、あえてこの3つだけを取り上げたのはなぜですか。

【事務局】

この文言だけでは分かりづらい部分かなというところでのご説明を入れさせていただきます。

【委員】

やるなら、やりきったほうがいいかなという気もします。せっかく皆さんが読むという前提で作られる冊子であれば、他にもいまさらという感じもあるかもしれないけれども、意外にICTとかAIとか書かれるだけで少し抵抗感を持つ人もいられるかもしれません。もしかしたら、詳細を付けてもよいと感じています。

【委員長】

脚注のようにして、もう少し小さな字で入れさせていただきます。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【副委員長】

8ページの(7)の下から3つ目の黒ポチは、私の専門でもありますのでどうしても気になりました。このオリンピック・パラリンピックの開催を契機に、本当に多文化共生社会の理解促進につながる動きというのは加速するのでしょうか。

【委員長】

ラグビーのワールドカップの時の「ワンチーム」という考え方というのは、見て分かりますね。典型的な日本人の格好をしていない人たちが大活躍して、スポーツをやっているというのは、全然自分と姿形が違う人を受け入れて当然なのだという雰囲気にもなってきているのだろうと。オリパラがそうなる

かどうかは分かりませんが、多摩市でもアイスランドの人たちを受け入れるそうですね。

【副委員長】

アイスランドのことや自転車ロードレースのコースの記載以外に、もっといろいろ地域の小学校とか、いろいろな所でやっているしというところもあります。これは必要かなと。

【委員】

施策につながる流れがつかれるものなのでしょうか。そうであれば、あってもいいと思うのです。例えば、アイスランドを受け入れることが生涯学習政策と関連付けて取り組みとして考えられることがあるのかどうか。そうだとしたら、入れておいたほうがいいと思います。

【委員長】

ホストタウンで子どもたちとの交流会とか、何かやるのですか。

【事務局】

たま広報の今年の元旦号にも、アイスランド大使と市長が対談ということでやっていて、アイスランドは世界男女平等ランキング11年連続世界一、環境パフォーマンス指標は世界で上位などとなる取り組みをやっているところで、ホストタウンになって良かったと思っているのです。ホストタウンは1年で終わりではなくて、そのあとも引き続き、継続して交流していくということでないとは認定されないということがございます。市としては、環境保護だとか男女共同参画、あとはもちろん国際交流、国際理解というところで、やり方は分かりませんが引き続き交流していきたいというつもりで、まずはホストタウン登録をしたというところがあります。具体的なもので何をしていくかということは、まだはつきり形としてはできていないのですが、少なくとも令和2年度は東京オリパラ、そのあとは今言った3つの国際交流、多文化共生、環境、男女共同参画というところで、アイスランドとの交流を通じていろいろなPRもしていきたいですし、生涯学習といったところで、市民の皆さんにご参画いただく場を提供していきたいということです。

【委員長】

永山公民館でアイスランドの話をしてもらってもいいし、あるのかどうか知らないけれども、アイスランド料理を食べようみたいなことなど。千代田区にはイタリア文化会館というのがあって、市民向けの講座として文化会館を借りて、イタリアの話を聞いてイタリア料理を食べるみたいなプログラムを作ったとかあります。

【事務局】

例えば、今もう既にコミュニティセンターという話があったのですが、ちょうど桜ヶ丘にあるコミュニティセンターでは、地域の人たちがホストタウンに決まったから何かやりたいということで、2月の中旬にアイスランドの国を知るためのギャラリー展示という企画展示を、自主事業でやっていらっしゃるということでは、生涯学習系の事業をやっているかと思っております。

【副委員長】

登録されたと言われても、事務局が語ったことが出てこないと思います。「これを契機に」とか、「国際理解を深めている」とか、アイスランド共和国のホストタウンとして登録されたとか、書き方を変え

ていただければと思います。

【委員】

だからつながらないのです。事実と生涯学習施策とのつながりが見えにくいということです。

【副委員長】

そういうことです。

【委員長】

次も、自転車競技ロードレースコースになったと。そのことが、生涯学習施策とどのようにつながるかが見えるといいと思います。

今、いろいろな所で、自転車乗り捨てのシェアバイクみたいなのをやって、それで例えば、永山の駅から桜ヶ丘の駅まで行ったり来たりすると、すごく市民にとっても、まさに「健幸まちづくり」でいいことになると思います。勝手なイベントのアイデアは出るのですが、先ほど梅澤副委員長がおっしゃったように、少し工夫したほうがいいですね。

【事務局】

これはまだ、現時点でオリンピックもまだ始まっていないので、令和2年度のその先のことを書くのがかなり厳しいかなと思いつつ、答弁程度の内容なのです。

【事務局】

交流計画のようなものはつくっているのですが、それでどこまで書けるのかなというところは、少し気になっているところです。

【委員長】

少し表現を変えて入れるか、考えていきたいと思います。他にどうでしょう。

【副委員長】

先ほどに戻るのですが、オリパラでなく、例えばラグビーのワールドカップとかは、本当にその通りだと思うのです。その意味では、「ラグビーワールドカップやオリンピック・パラリンピック」と入れると納得できるというか、スポーツの価値、スポーツの力というのが分かるのですが。オリパラに限定されてしまうと、いろいろな問題があって、本当に多文化共生社会の理解促進につながるようなことができているのだろうかと思う人が出てきてしまうかなと思いました。

【委員】

表現は少し変えたほうがいいとは思いますが、SDGsの17番目が「持続可能な目標に向けてパートナーシップを組んで達成しよう」という項目に該当するので、国と国との付き合いですから、その中でお互いの国と国同士の共通点が見いだせれば、そこから発展性が生まれるので、私はいいと思います。「17番目に」というのは、どうするのかなと思いますが。最後ですが、すごく器が広過ぎる目標なので、では、どうすればいいのかと言われても、私にはお答えができませんけれども、でも該当するからいいのではないですか。

【委員長】

ありがとうございました。そこらへんは、今までのご意見を踏まえて検討させていただきます。他に、どうでしょうか。

【委員】

先ほどと重なるのですが、オリンピック・パラリンピックだと、ラグビーもやはり開催国だったので、小さい意味だと「東京は？」という感じですが、入れてもいいのではないかと思います。多摩市にもナミビアの選手が泊まられていたのをご存じですか。実は、京王プラザホテルに宿泊されていて、地域の方と交流したりされていたのです。結構、「にわか」と言われたのですが、世界の人のことを知ろうとしたり、あれをきっかけにぐっと寄ったような感じは受けているので、あってもいいのではないかと思います。

【委員長】

分かりました。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。原案作成に協力した身でこういうことを言うのは申し訳ないのですが、生涯学習というのは学び・学習、文化・スポーツを全部含むということなのに、スポーツの話は載っているけれども文化の話がないと思いました。多摩は、サンリオピューロランドがあるし、パルテノン多摩などもあります。文化活動はいろいろな形がありますけれど、そういうものを入れてもいいかと。

【委員】

たまに多摩中で伝統文化を教えています。この間、貝合わせをやったのですが、難しいけれどもすごく面白いです。

【委員長】

私は多摩市には住んでいないのですが、外から見ると、多摩というのは文化のまちという感じがするのです。

【委員】

古墳とかありますから、そういう勉強もできるし、昔はかやぶき屋根の家がたくさんありました。そういうのは小林委員がよくご存じです。この間もコミュニティセンターで多摩そばづくりをして、子どもたちと親を呼んで、作って食べさせてあげました。多摩そばといっても、そばではなくうどんなのです。そういうものなど、結構、探せばたくさん文化があります。

【委員】

映画祭があります。

【委員長】

文化を共有するというのは、すごくつながりやすいのです。政治経済社会だと、少し角が立つ場面もあるのですが、文化だとみんなを楽しませるほうだからすごく共有しやすく、先ほど始まる前に話した祭りの話などもあります。祭りはある種文化で、それは老若男女を含めて共有できるという。多摩はニュータウンだからそういうのが少ないのかもしれないけれども、そういうものをつくれればいいわけで

す。そういうことができ、すごく人がつながりやすくなると思います。課題を共有するのにつながる道ですが、楽しいことを共有するの人も人がつながることにつながると思います。どうですか。

【事務局】

ありがとうございます。地域文化の話などもあるのですが、先ほど委員長から「パルテノン多摩」というワードも頂きました。まさにここが、今年の3月で閉館して大規模改修に入ります。令和4年度オープンを目指して、これから2年間閉館するのですが、30年たって古い所が傷んでいるから改修しようという、単なる改修ではなくて施設そのもののあり方です。興行的な事業を見に行き、観客として楽しむだけではなくて、もっと市民が運営に関わっていく仕組みを考えたほうがいいのではないかと。今、設計・ハード部分もそうですが、ソフトの部分で「管理運営計画策定委員会」というのを、市民や有識者が入ってつくったところです。方向性を考えて、今度はもっと具体的にどうやっていこうかという、閉館中は大規模改修が終わったあとの施設再オープンに向けて、生まれ変わるといったことを考えているところです。そういった部分や、さきほどご意見いただいた地域の伝統文化も併せて、記載したいと思います。

【副委員長】

現状と課題の「多摩市では」のところ、ここだけすごく、取り組んでいる、ホストタウンとして登録された、設備を進めているなど、やっていること、進めていることが書かれています。

【事務局】

市の部分での課題ということですか。

【副委員長】

文化の伝承というものをもう少し盛んにしていくべき、という書き方ではないけれども、伝承者の高齢化による課題とか、何か課題があるのではないかと思います。どうでしょうか。(7)はすごく、先ほど笹井委員長がおっしゃられたような、生涯学習と文化教育というのは、一番このところが厚く書かれなければいけない部分だと思うのです。

【委員】

昔、市民から絵を募集したりしていましたが、なくなってしまったのですか。だいぶ昔ですが、いろいろな所に飾ってありました。

【事務局】

事業としては、なくなっています。

【委員】

市民の中に、結構すごい人がいるなと思って感心していたのです。ここは東京だから、どこへ行ってもミュージシャンとかアーティストが結構いるわけです。そういう人とつながっていったらいいですね。

【委員長】

その意味では、(4)なのか(7)なのかというところはあるのですが、「多摩市では」というところに、やはりこのニュータウンをつくってきたテーマコミュニティ、NPOの方たち、あるいは地域でい

ろいろな活動を支えてきたグループの方たちの高齢化というのは、とても深刻な問題だと思います。そういうことは、もしかしたらこの「多摩市では」というところに表現しておくことが重要になってくる部分かと思います。

【委員】

周りを見てもNPO法人は多いです。我々は、地域地縁型でやっているけれども、それがないので、NPO法人がたくさん出てきています。確かに高齢化とか、後継者問題は深刻です。

【副委員長】

そうすると、次の担い手というか、そういうところを生涯学習の中でどうやって育てていったり、若いNPOの人たちを支えていくのか、そういうことも重要になってくると思います。

【委員】

育てるといのはおこがましい話で、そういう人たちは新しい課題で、ミッションで新しいNPOができるような環境をどうやってつくっていくかというのを考えないといけないと思います。

【委員長】

今、そういう具体的な解決策の話も出ましたけれども、18、19ページに「多摩市の生涯学習をめぐる課題のまとめ」があります。要するに、市民活動の担い手が、先細りというと怒られてしまうけれども、不安があるという意見があります。課題1の参加を妨げている原因の解消では、アクセスなのでこれは物理的な障害とか時間的な障害、あるいは金銭的・経済的な障害という問題としてよく言われるのですが、これを解消したり、あるいは課題2の個人や地域・社会のニーズに応じた生涯学習メニューの充実、課題3は誰もがいつでも気軽に集え、学び合える場の充実、課題4は誰もがつながり、認め合える学びの環境づくり。課題5は、先ほどの情報収集と関連しますけれども、生涯学習活動に関する情報提供・意識啓発。次の20ページは、課題6で学びの成果の発揮、課題7は多様性を認め尊重し合社会の実現に向けた学習の推進、課題8が多文化・多世代交流・横のつながりの推進ということです。ここにもう1つ、課題9として「市民活動のさらなる推進」ということですか。

【委員】

先ほどの現状把握と課題を分けて記述するのであればですが、課題として捉えるのだったら、私もこちらかなという印象は持ちました。ないしは、世代間ギャップのところに入れるかです。

【委員長】

でも、NPOの活動とかは多種多様ですので、生涯学習推進計画だから、そういうのがあってもいいと思います。行政が中心ですが、行政だけに任せるわけではなくて、市民が市民のためにサポートしても全然構わないわけです。そういうところは、ありがたい話です。課題をもう1つ付け足す方向にしたいと思います。

【委員】

むしろ、「多摩市では」というところに立ち返ると、ここで先ほどアイスランドが入っているとか、ボートレースとか、小学校の跡地に整備計画があるとか、ないしはパルテノン多摩の改修計画もそうだ

し、あの辺一带、今、図書館を造って変えようとするような施策も進んでいます。あれも完全に生涯学習に関わる話かなと思ったときに、そういうところを前提においた現状把握がなくていいのかなと思いました。

【委員長】

もう少し分かりやすく言うと、どういう意味ですか。

【委員】

パルテノン多摩の改修計画は、先ほどご説明があったとおり、ただ単に建物を替えるというだけではなくて、そこで他世代が交流するようなフロアをつくったり、イベントを行ったり、ないしは市民が文化活動に参画できるようなことを取り入れる。例えば、ボランティアとして運営に関わったり、チケットを切ったり、市民が参画できるような仕組みをするという話を聞いているのです。それだけではなくて、多分、あそこに中央図書館を造って、多摩中央公園とパルテノンと図書館を3つ、個別にその場にあるというだけでなく、連携させて、学習活動が文化と学習と、公園で体を動かすみたいなことと、有機的に連携するような施策を考えていらっしゃるのではないかと思います。そういうことが動いているということは、生涯学習施策にすごく大きく関わると思います。端的に、すごく分かりやすく言ってしまうと、そういうものが不足しているからそういう施設や施策をやりますという流れが説明の中にできていると、そういう施設を造ることになっているのだなという意味とか意義につながりやすいのかなと思ったのです。

【委員長】

理由や背景の説明があるといいということですね。

【副委員長】

その意味では、この北貝取の話も、だからこれが進んでいるという話なのですよ。

【委員】

そうです。これだけだと、何のことだか全く分からないのです。

【副委員長】

ここは一応、現状と課題なので。

【委員長】

分かりました。ありがとうございます。1～20ページ目まで見ていただいて、今の段階でご意見や案がありましたら頂きたいと思います。いかがですか。よろしいですか。今の段階で特段なければ、今日の会議はこの辺にさせていただきたいと思います。お気付きの点があれば、ぜひメールで頂ければと思います。よろしくお願いします。

5. その他

【事務局】

次回の策定委員会は、3月26日（木）17時30分から401会議室で開催予定です。ご予約のほど、よろしくお願いいたします。次回は、来年度の予定について、来年度のスケジュールが分かるものをお持ちいただければ、その場で、このスケジュールで大丈夫かどうかの確認をしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。今回、骨子案について頂いたご意見を踏まえて、3月10日に今年度の最後の、市長を本部長としました「生涯学習推進本部会議」でいったん骨子案の取りまとめとして、ある程度この方向性でというのを市長に向け報告をさせていただきます。その後、次回は素案の検討に入っていければと考えております。ただ、素案の検討をしていく中で、施策等、具体的なものが出てくるので、そこで骨子案との整合を取るために骨子案のほうも少し見直しをすとか、そういったところも今後できればと思っております。よろしくお願いいたします。

【委員長】

骨子案を肉付けしたものが素案ですか。

【事務局】

はい、そうです。

【委員長】

本日ご欠席の委員の方々も、今後素案を作る段階でご意見を頂ければと思います。それでは、今日の委員会はこれで終了としたいと思います。

6. 閉会

終了